

ヒルフェ通信(11月号)

❀ そっと寄り添いやさしくサポート ❀

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は高齢者、精神障がい者、知的障がい者等の権利の擁護及び福祉の増進に寄与することを目的として、東京都行政書士会が設立した法人です。



◆地区連絡協議会が開催されました

9月29日(水)コロナ感染防止のため昨年につき、WEB 会議方式により令和3年度地区連絡協議会が開催されました。これは平成25年に地区リーダー会議としてはじまったもので年に一度、33地区の地区リーダーが招集されて行われています。

山崎節子理事長より開会のご挨拶から始まり、間近に控えた緊急事態宣言解除に伴う、ウイズコロナ・ポストコロナ時代を見据えたヒルフェの活動の根幹となる地区活動の重要性についてのお話がありました。



第1部では、ヒルフェの対外的な活動、地区活動の趣旨について釘田一富副理事長から参考例として、町田地区で行われた映画上映とエンディングノート等の活用方法を講演した例について、ブロック統括理事である高橋進常任理事から地区活動費について、財務部・総務部・研修部・広報部・後見事業部・法人後見事業部それぞれの担当理事より各部からの説明がありました。そして、第1部の締めくくりとして地区活動の活性化を図るための助成金制度について、齋藤志郎前副理事長から説明がなされました。

休憩をはさみ、第2部ではまず、高橋進常任理事より地区・ブロック担当の活動支援に向けてと題し、成年後見制度利用促進法に基づく国の動向・他専門職団体がそれぞれ現状と課題をどう捉えられているかを解説・意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドラインについての説明・成年後見事件概況などのお話がありました後、今後の地区活動支援に関連する諸案件の提案が熱く語られました。その後、全地区リーダーがそれぞれ地区活動の現状についての報告・情報交換に移り、コロナ禍で制限された中で地区それぞれの課題はある中、各地区が創意工夫をされながら活動されていることが大変良く知ることができました。報告終了後、東村次郎専務理事から総括、雨谷幹彦副理事長の閉会の言葉で終了となりました。



地区活動は、ヒルフェの活動の大変重要な位置づけであり、地域性によってはまだ困難な状況にある地区もありますが、各地区の弛まぬ努力で、ヒルフェの存在が少しずつでも確実に地域へ根付きつつあることを強く感じ取ることができました、大変有意義な会議でした。
(地区ブロック活動担当理事 古林孝一)

◆ひきふね図書館(墨田区)で行政書士に関する展示が行われました

「あらゆる人に法情報提供を」を活動理念に、図書館と深いかわりを持って活動している法教育推進特別委員会の働きかけで、今回、墨田区のひきふね図書館におきまして、行政書士に関する展示がおこなわれました。コーナーには行政書士会のパンフレットはもちろん、支部活動の案内や行政書士の業務に関連する書籍なども紹介されていました。ヒルフェもパンフレット以外にも、クイズやヒルフェニュースなどを作成し、啓発活動を行ないました。また、同館のプロジェクトコーナーでは、同時に「認知症特集」も開催されており(～10月20日)、来場される方により関心を持っていただけたのではないかと思います。



ヒルフェの単独活動だけでなく、今回のように本会の各部や委員会、支部のご協力をいただき、今後の地区の活性化につながる活動が増えていけばよいと思います。